



福島県立

ふたば未来学園高等学校 ×

生き抜く力を、子ども・若者へ

NPOカタリバ

【第1回総合教育会議】

主要施策4 「ふくしまの未来に向けた創造的復興教育」の取り組み
「変革者たれ！」ふたば未来学園における教育実践

2018年8月3日
福島県立ふたば未来学園高校
学習コーディネーター
長谷川勇紀
(認定NPO法人カタリバ)

①「マイプロジェクト」に溢れる高校

- ▶ ふたば未来学園では、常に**40～50のプロジェクト**が校内で動いています
- ▶ プロジェクトの実践は生徒の「志」を育み、大学に進学した生徒は、**未来の復興の担い手**として腕を磨いています



▼FMふたばプロジェクト

○プロジェクト内容

- ・青空市「ファーマーズマーケット」を開催
- ・地域と一体となり、地元の野菜を販売
- ・地産地消を通して、原発事故の風評払拭を発信

※プロジェクトは「全国高校生マイプロジェクトアワード東北大会」に選出された

○現在の進路

- ・自らの取り組みを受験で語り、福島大学行政政策学類に進学
- ・農業を軸に、住民参画型のまちづくりを研究中
- ・将来は双葉郡に戻り、同級生と共に会社設立を目指している



【校内に溢れる40～50のマイプロジェクトたち】（抜粋）



▼双葉郡の「今」を知る
双葉郡ツアープロジェクト



▼地元の食材を使った楢葉町の
小中学校向け給食開発プロジェクト



▼浪江町で子どもと高齢者の交流機会を
通した、健康寿命向上プロジェクト



▼高校生視点で廃炉語る
廃炉座談会プロジェクト

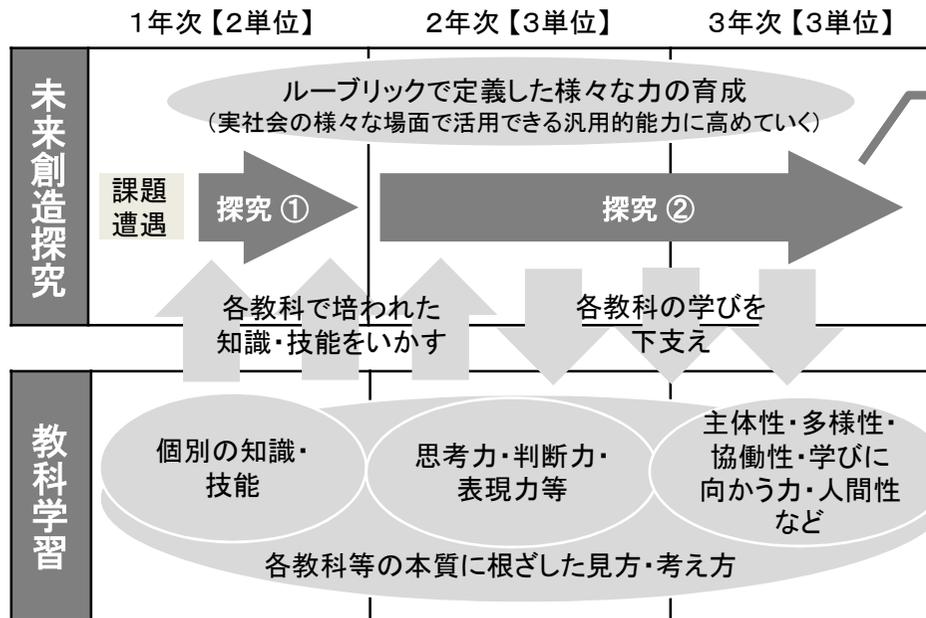


▼地域の人と共に双葉郡を盛り上げる
田んぼアートプロジェクト

② 「マイプロジェクト」が生まれる仕組み

- 「**未来創造探究**」という探究学習をカリキュラムの軸に据え、**授業を通してプロジェクトの実践**を行っています
- 同時に、「**双葉みらいラボ**」という放課後の居場所を設置し、**放課後の継続的な探究学習を実現**しています
- 放課後の「**ナナメの関係**」は**心のケアの効果**もあり、生徒一人一人の主体性を育てています

日中の授業



▼探究テーマによって、6つの探究班に分かれて授業を実施

<p>原子力防災探究</p> <p>原子力災害によって失われた地域コミュニティの再構築について研究する。</p>	<p>メディア・コミュニケーション探究</p> <p>海外を含めた、異文化の方々に向けた情報発信やコミュニケーションの有効な方策を研究する。</p>	<p>再生可能エネルギー探究</p> <p>福島の現状を踏まえた、望ましい人間社会と、地球環境やエネルギーの関係性について研究する。</p>
<p>アグリ・ビジネス探究</p> <p>福島の復興につなげる、今後の農業とビジネスを研究する。</p>	<p>スポーツと健康探究</p> <p>福島の地域を、スポーツを通じて豊かにする方策を研究する。</p>	<p>福祉と健康探究</p> <p>福島の地域において、少子高齢化が加速する中での健康長寿の実現の方策を研究する。</p>

※2年生、3年生の計12個のクラス（ゼミ）が同時進行している

放課後の居場所

コラボ・スクール 双葉みらいラボ

- 【名称】：コラボ・スクール双葉みらいラボ
- 【開所】：2017.9.28～
- 【時間】：平日の放課後～20:00
- 【運営】：NPOカタリバ
- 【役割】

教員のみでは対応出来ない、**地域と協働する継続的な探究学習**や、様々な学力層の生徒たちの学習を支えるために設置。

NPO職員を常駐させている。同時に「未来創造探究」の**カリキュラム設計支援、授業支援**も行っている。

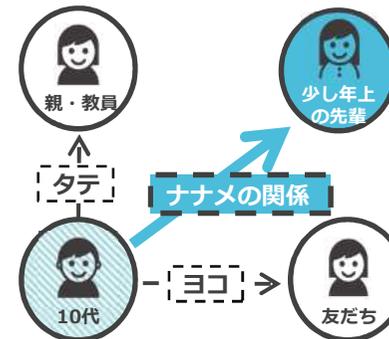


※1か月間に延べ1,000人ほど
1日に延べ50～60人が利用

© 2018 認定NPO法人カタリバ

▼「ナナメの関係」を校内につくる

※本音を話したり、憧れを抱いたりしやすい関係性



▼生徒の声（アンケート抜粋）

自分を認め、前向きに物事を考えることができるようになった。

自分のやりたいことを見つけるきっかけとなり、行動する勇気を持てた。

③「ふたば未来学園だからできる」からの脱却

- 浜通りは課題先進地域だからこそできる学びのあり方があります
- プロジェクト型の探究学習の授業モデルは他校にも展開できます
- 放課後の居場所を週2、3日で開館し、生徒と地域をつなぐハブ機能としての効果も期待できます

1、プロジェクトが生まれることになくてはならない「課題」という学習題材が浜通りにはある。

2、すでに高校生自らが動き出しているマイプロジェクトもある。この動きを加速してこそ、ふくしま発の「未来創造型教育」が確立されていく。

3、福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成の推進の中で、磐城高校とも連携を開始。ふたば未来学園の取り組みをどのように横展開していくかを現場の先生たちと共に議論している。

4、放課後の居場所の設置は、たとえ平日2、3日の開館であっても、生徒の学びを底上げする場所となり、生徒と地域をつなぐハブ機能として効果を発揮する。

▼富岡町の帰還困難区域をまわるフィールドワーク



▼福島高専生の米女子（マイガールズ）プロジェクト（米消費量の拡大を推進）



▼福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成「磐城高校」でのセミナー開催



▼放課後の居場所の設置（校内併設を推奨）



➡ 1つの高校単独の取り組みから、地域全体で「創造的復興教育」を推進していくことが求められる（「点」から「面」の取り組みへ進化させる）